

# 6月 日本共産党県議団 県議会ニュース です

高村京子議員の6月県議会一般質問の答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの[議会の様子](#)からご覧いただけます。



## ＊ ＊ 地域医療構想について ＊ ＊

**高村** コロナ禍により現実離れしている地域医療構想は撤回すべきと考える。感染症対策の体制強化を位置づけ、保健所機能の強化と一層の連携も視野に入れ、高度救急・急性期医療から回復期・在宅医療、介護施設との役割分担も含め地域医療関係者協議会の充実した議論を促すべきでは。

**健康福祉部長** 医療圏ごとに調整会議を設置している。この場を活用して地域の医療機関が担う幅広い医療機能や地域の実情等を踏まえながら、役割分担と連携強化について、関係者の合意の下で進められるよう丁寧な議論を促進していく。

## ＊ ＊ 医師・看護師の不足について ＊ ＊

**高村** 県内勤務医の厳しい労働環境をどう改善するのか。コロナ禍でさらに深刻となった看護職確保の実態と受け止めは。

**健康福祉部長** 医師の勤務実態は過酷な状況と認識している。修学資金による養成、ドクターバンク事業による医師の確保、労働環境の改善策を強める。看護職員確保では長野県ナースセンターの人員体制を強化し、潜在看護職の掘り起こしや就業先等のマッチングを行い、看護職の確保に努めている。

## ＊ ＊ 経営不振に苦しむ中小事業者支援について ＊ ＊

**高村** 自粛生活を強いられるままでは、更に多くの中小企業者が閉店や倒産に追い込まれるのではと危惧する。コロナ禍でも地域経済を再生していく方策を真剣に検討すべき。

**知事** 県民の命守ることを最優先にしながら、対策・対応をしてきた。「信州の安心なお店認証制度」や「家族宿泊割」等、県としての支援策で応援をしている。引き続き命と健康、そして暮らしと産業を守ることを念頭に置きながら取り組んでいく。

## ＊ ＊ 高校再編計画について ＊ ＊

**高村** さらになる高校再編によって、行きたい高校が遠距離通学となる生徒が増えるのではないかと危惧する。コロナ禍でも行きたい高校に行くことができるよう、市町村が行っている補助の実態把握をし、高校再編計画の中で通学費補助について検討してほしい。

**教育長** 家庭の経済的負担軽減は、コロナ禍による家計急変世帯にも支給対象を拡大している。現在の遠距離通学費の無利子貸与制度の見直しにつながる話で、奨学金制度全体の整合性等を勘案する必要もあるので、慎重に考えるべき。

**高村** 高校再編は青春の夢を後押しし、県民の願いに応える教育県長野として、充実した改革を望む。

### 〇質問を終えて〇

命を守る最前線で奮闘されている医療機関、医師・看護職員を支える長野県。15才の春、だれ一人とり残さない高校改革へ声を上げていきましょう。

